

平成 29 年度病害虫発生予察 注意報 第 2 号

平成 29 年 8 月 31 日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

対象作物：白ネギ

対象病害虫：シロイチモジヨトウ

- 1 対象地域 県北部地域
- 2 発生面積 多い
- 3 発生量 多い
- 4 発表の根拠

(1) 8月下旬の巡回調査結果では発生圃場率、被害葉率ともに平年を大きく上回った(図)。

発生圃場率 : 100 % (平年 : 36.7 %、前年 : 100 %)

平均被害葉率 : 9.6 % (平年 : 1.9 %、前年 : 6.5 %)

(2) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長される。気象予報によれば向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 60 % と予想される。

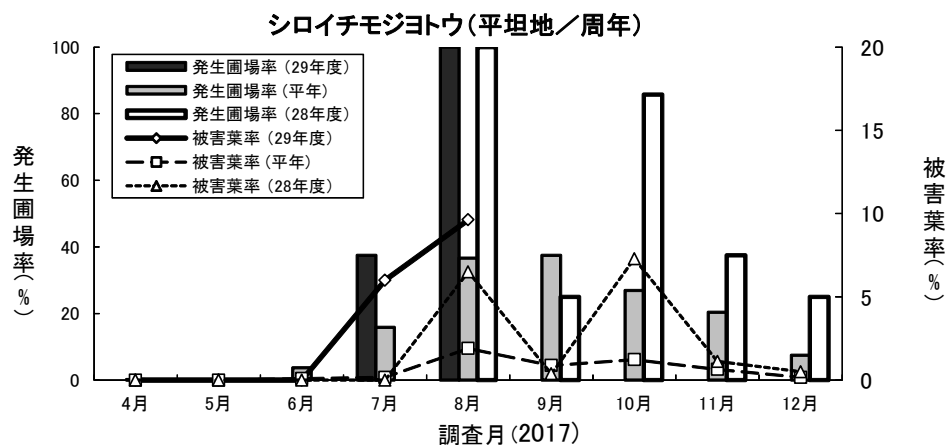


図 病害虫発生予察巡回調査における白ネギシロイチモジヨトウの発生推移

裏面に続く

5 防除対策

(1) 下記農薬に対して感受性の低下した個体群が確認されている(表)。本虫は農薬に対する抵抗性を獲得しやすいため、同系統の薬剤を連続して使用しない。

表 感受性の低下が確認された農薬(2006, 大分)

IRAC	系統名	一般名(成分名)	商品名
1A	カーバ	チオジカルブ水和剤	ラービン水和剤75
3A	合ピレ	エトフェンプロックス乳剤(※) シペルメトリン乳剤	トレボン乳剤 アグロスリン乳剤
15	I GR	クロルフルアズロン乳剤 テフルベンズロン乳剤 フルフェノクスロン乳剤	アタブロン乳剤 ノーモルト乳剤 カスケード乳剤
22A	その他	インドキサカルブ水和剤(※)	トルネードエースDF
21A		トルフェンピラド乳剤	ハチハチ乳剤

※個体群によっては薬剤の効果が認められている。

- (2) 本虫が葉身内に侵入すると防除効果が著しく低下する。葉身内に侵入する前に防除を行う事が重要である。
- (3) 散布時は展着剤を加用し、十分な薬液量(ラベル記載内容の範囲内)で丁寧に散布する。
- (4) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にあ
る「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」(<http://www.jppn.ne.jp/oita/>)を参
照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合
があるため、容器のラベルに従って使用する。



病害虫対策チームホームページ